



日赤なら

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



私たちは、忘れない。

東日本大震災復興5周年支援プロジェクト



災害救護活動



赤十字講習会



赤十字ボランティア



青少年赤十字

県民の皆様には、赤十字事業の推進につきまして、日ごろより格別のご支援ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

日本赤十字社は、災害等から命を守るため、救護活動や被災者支援などの人道的な活動を行っています。奈良県支部では、「防災・減災講習」、「赤十字ボランティアや青少年赤十字の育成」、災害などで被災された方々の「救護活動」をはじめ、いざという時に役立つ「赤十字講習」や「血液事業」など、さまざまな活動を展開しています。

赤十字活動はすべて、皆さまお一人お一人からの「社費(会費)」と「寄付金」、そして多くのボランティアの方々によって支えられています。

皆さまのあたたかいご支援ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

活動資金にご協力をお願いします。



郵便局からの
お振込の場合

口座記号番号:00950-9-105293
加入者名義:日本赤十字社奈良県支部

日本赤十字社奈良県支部

〒630-8133
奈良市大安寺1丁目23番2号
TEL: 0742-61-5666
FAX: 0742-61-5756
<http://www.jrc-nara.jp/>



※振込用紙の通信欄には、「活動資金」とご明記ください。
※南都銀行からお振込の場合は、支部へご連絡ください。振込用紙を郵送いたします。
※このほか、口座振替による「活動資金」の協力もお願いします。

災害救護活動



災害からいのちを守る

地震や台風などで災害にあわれた被災者を救うため、県立3病院に加え、新たに奈良市・大和高田市の市立病院と救護班派遣の委託契約を締結しました。また、さまざまな被害想定による訓練・研修への参加、防災ボランティアの研修に努め、救援物資の配布や義援金の受付なども行っています。

東日本大震災では、医療救護班や防災ボランティアの派遣、こころのケア活動の実施、また紀伊半島大水害では、救援物資の配布や平成25年に実施した野迫川村仮設住宅入居者の方との交流に続いて、平成26年6月には、十津川村で復興住宅に移られた被災者の方と赤十字奉仕団が交流をしました。



←↑訓練の様子



ボランティアによる搬送→

救護資機材・救援物資の整備

南海トラフ地震などの大規模災害に備え、支部では救援物資の備蓄に加えて、平成28年度は、救護班の派遣等に必要となる装備品(救護班の携行バック、衛星電話屋外設置用アンテナ)を充実します。また、企業との災害時物資支援協定の締結にも取り組みます。

さらに、市町村に対しても、平成27年度に発電機と投光器を配備しましたが、平成28年度は災害救護車とAEDの更新をします。



市町村に配備している資機材

毛布



緊急セット



スプーン、フォーク、携帯ラジオなどが24品入っています。

安眠セット



避難所生活の負担を軽減するためマット、枕など、8品目が入っています。

地域や家庭で防災・減災について考えてみませんか？

東日本大震災などの災害から学んだ知識や教訓を、今後の備えとして多くの方に知っていただくため、「赤十字防災啓発プログラム」を普及しています。

町内や自治会での集まりに積極的に指導員を派遣しています。

(詳しくは、事業推進課までお問い合わせください。)

また、奈良県支部でも避難所体験プログラムを取り入れた災害時要援護者生活支援講習会を実施しています。

(右の支部主催講習一覧参照)



非常食を作っています

青少年赤十字



思いやりを育む

将来をになう児童・生徒が、自ら「気づき・考え・実行する」という生きる力を養うため、先生等の青少年赤十字指導者の協力のもと、学校教育の現場で豊かな人間性や社会性を育む活動をしています。

先生等を対象とした防災教育研修・セミナーへの講師派遣や、県下全学校への防災教育教材(DVD)の配布により、学校における防災教育の充実に取り組みます。また、加盟校の意欲的な活動に対し支援(助成)を行います。



- 健康・安全
- 奉仕
- 国際理解・親善

3つの実践目標



トレーニングセンターで学んだことを壁新聞にして発表しています。



防災教育教材



マレーシアメンバーとの国際交流

加盟校を募集中!

国際活動



世界とつながる

世界190の国と地域にある赤十字の一員として、災害や紛争等で苦しむ人々の緊急救援や復興支援を行っています。また地域保健医療活動にも協力しています。



ネパール地震での診療活動

看護師の養成



国内外で活躍できる看護師を

豊かな人間性と看護に関する幅広い能力と、救護の専門知識を兼ね備えた看護の実践者を育成するため、大阪赤十字看護専門学校に委託し養成事業を行っています。赤十字看護学生には奨学金制度も設けています。



血液事業



献血にご協力を!!

献血場所

奈良県赤十字血液センター：大和郡山市筒井町600-1 TEL.0743-56-5916
<http://www.narakenketsu.jp/>
 近鉄奈良駅ビル献血ルーム：奈良市東向中町28 近鉄ビル6階
 TEL.0742-22-2122



血液センターでは、県内各地で献血をお願いし、24時間体制で安全な血液を安定的に医療機関へ届けています。血液は、長い期間にわたり保存ができないため、絶えず誰かの血液が必要となります。また、献血者は年々減少傾向にあり、約10年後にはおよそ85万人分が不足すると試算されています。献血にご協力をお願いします。



献 血 基 準	成分献血		全血献血	
	血漿	血小板	200mL 献血	400mL 献血
年 齢	男女とも 18歳～69歳	男性 18歳～ 69歳※ 女性 18歳～ 54歳※	男女とも 16歳～69歳※	男性 17歳～ 69歳※ 女性 17歳～ 69歳※
体 重	男性 45 kg以上・女性 40 kg以上		男女とも 50 kg以上	

※65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までに献血の経験がある方に限ります。

赤十字ボランティア



活動を支える



“赤十字のボランティア活動を通じて、地域社会を住みよくしよう”
という気持ちをもった人々の集まりで、年齢や性別は問わず、災害救護や献血の推進、講習会の普及や赤十字事業の推進をはじめ、地域社会のニーズに応じた幅広い活動に積極的に参加、協力しています。

地域赤十字奉仕団

全体の取組として、地区委員会や研修会の開催、ハンセン病施設訪問(岡山県)と里帰り事業への協力などを行っています。また、地域活動では、防災訓練への参加、モデル奉仕団活動、献血協力の呼びかけ、クリーンアップならキャンペーンへの参加、海外たすけあいの募金活動と受付協力などの活動のほか、老人ホームでの交流や地域での清掃活動などに取り組んでいます。



上段左：海外派遣要員の講演
上段中：グループワークの様子
(研修会にて)
上段右：赤十字イベントでの
炊き出し
下段左：青少年赤十字メンバーへの
防災学習
下段右：防災ずきんの作成



安全法指導赤十字奉仕団

指導員資格を有し、健康で安全に暮らすための知識と技術を伝える講習を普及しています。



無線・救護赤十字奉仕団

無線技士の資格を活かし、災害時の情報収集や伝達を担うため通信訓練や救護活動を行っています。



通信訓練

看護赤十字奉仕団

看護師の資格を有し、公共性の高い行事への臨時救護などの活動を行っています。



奈良マラソン臨時救護所

青年赤十字奉仕団

勤労青年や大学生で組織され、献血の呼びかけや青少年赤十字のサポートなどの活動をしています。

青少年赤十字賛助奉仕団

青少年赤十字の指導に当たっていた先生で組織され、青少年赤十字を支えています。

赤十字講習会



いざという時に備えて

心肺蘇生やAEDの使用法などを学ぶ救急法をはじめ、いざという時にすぐに役立つさまざまな講習会を実施しています。平成27年度は講習指導員資格を有する安全法指導赤十字奉仕団にご協力いただき、約320回開催し、延べ1万1千人以上の方に受講いただきました。

救急法講習



一次救命処置や急病や骨折など、けがの応急手当などについて学べます。

幼児安全法講習



子どもに起こりやすい事故の予防とその手当などについて学べます。

災害時要援護者生活支援講習



避難所での生活支援の方法・こころのケアについて、また防災・減災のための対応などについて学べます。
(毛布を使ったガウン)

健康生活支援講習



高齢者との接しかたや介護のしかたなどについて学べます。

水上安全法講習



泳ぎの基本と事故防止、おぼれた人の救助方法などについて学べます。

平成28年度支部主催講習一覧

講習区分		実施日	時間	会場
救急法	基礎講習 ・心肺蘇生やAEDの使い方	10月29日(土)	9時30分～15時	支部
		平成29年1月15日(日)		
	基礎・救急員養成講習 ・心肺蘇生やAEDの使い方 ・急病、けがの手当 ・搬送や救護など	5月15日(日)、21日(土)、22日(日)	1日目: 9時30分～15時	奈良市
		8月(3日間実施)		未定
	12月(3日間実施)	2日目・3日目: 9時30分～18時	橿原市	
	平成29年2月(3日間実施)		大和郡山市	
安全法上	救助員Ⅰ養成講習 ・水の事故防止 ・泳ぎの基本と自己保全など	5月29日(日)、 6月5日(日)、12日(日)	9時30分～17時	スイムピア 奈良
健康 生活 支援 講習	支援員養成講習 ・高齢者の健康と安全 ・日常生活における介護など	5月12日(木)～14日(土)	9時30分～15時30分	支部
		10月12日(水)～14日(金)		
幼児 安全 法	支援員養成講習 ・子どもに起こりやすい事故 の予防と手当など	6月4日(土)・5日(日)	9時～17時	支部
		11月17日(木)・18日(金)		
災害時要援護者生活支援講習 ・赤十字防災啓発プログラム ・体験プログラムなど		8月11日(木祝)	9時30分～15時30分	支部
		平成29年1月14日(土)		

※申込方法や教材費等、詳しくは奈良県支部まで問い合わせいただくかホームページをご覧ください。
(日程が未定の講習も日時が決まり次第、ホームページに掲載します。)

赤十字活動資金にご支援をお願いします

活動資金となる社費、寄付金、社資とは

社費は、赤十字社員※1として納めてくださるもので、寄付金は、赤十字社員以外の方が支援してくださるものです。社資（活動資金）は、社費と寄付金を総称して呼んでいます。

※1 赤十字社員とは

赤十字社員とは株式会社などの社員という意味ではなく、社団法人の社員又は会員と同様のもので、毎年継続して500円以上を納めてくださる個人社員や法人社員のことを言います。
また、赤十字への加入等は、決して強制ではないことをご理解の上、ご支援をお願いいたします。

活動資金と国内義援金と海外救援金の違い

活動資金…災害時の救護、ボランティアの育成、講習会普及事業など赤十字の事業に活用されます。

国内義援金…国内の災害で被災された方々に対し、県・市町村を通じて全額被災者に配分されます。

海外救援金…海外の災害や紛争等の被災者に対し、赤十字が行う（本社へ）救援活動や復興支援事業に活用されます。

このほか活動資金にご支援いただく方法として…

近年、遺贈による寄付や相続財産の寄付、香典返しに代えての寄付などでもご支援をいただいております。

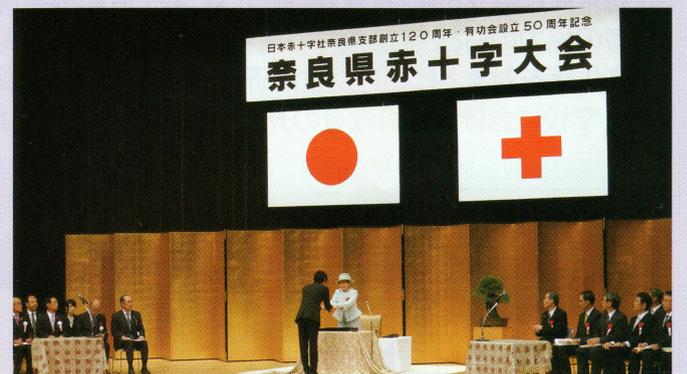
「CSR活動」に「赤十字」を取り入れませんか？ ～赤十字で社会貢献～

赤十字の活動に継続的にご協力いただく法人・団体様（個人は除く）は、社会貢献活動を公に示すために「赤十字支援マーク」をお使いいただくことができます。



日本赤十字社

わたしたちは日本赤十字社の活動を支援しています。



・奈良県赤十字大会（支部創立120周年・有功会設立50周年記念）
平成27年11月11日 奈良県文化会館国際ホールにて

日本赤十字社の表彰制度

項目	贈与対象内容
支部長表彰状 支部長感謝状	活動資金として、一時または累計で10万円以上を納められた個人・法人等
銀色有功章社員	活動資金として、一時または累計で20万円以上を納められた個人・法人等
金色有功章社員	活動資金として、一時または累計で50万円以上を納められた個人・法人等
日本赤十字社感謝状	金色有功章受章後、更に活動資金として50万円以上を納められた個人・法人等

国の表彰制度

項目	贈与対象内容
厚生労働大臣感謝状	活動資金として、100万円以上を納められた個人 300万円以上を納められた法人等
紺綬褒章	活動資金として、500万円以上を納められた個人 1,000万円以上を納められた法人等

平成26年度決算

収入の部	決算額(円)
社資収入（地区区分（市町村）及び支部を通じた個人、法人からの社費、寄付金）	132,426,153
補助金及び交付金収入（日本赤十字社本社からの交付金）	400,000
資産収入（災害救援車両更新に伴う売却）	175,000
雑収入（講師派遣収入、講習用教材費収入等）	7,979,069
前年度繰越金	28,889,330
収入合計	169,869,552

支出の部	決算額(円)
災害救護事業費（災害に備えた救護装備費、救援物資整備費、医療救護訓練費、救護看護師養成費等）	13,270,015
社会活動費（救急法等講習普及費、奉仕団及び青少年赤十字育成費、血液事業普及費）	40,394,790
国際活動費（ケニア地域保健強化事業費・近畿共同事業）	1,040,000
指定事業地方振興費（災害救護資機材費、救援物資整備費）	3,000,000
地区区分交付金支出（地区区分（市町村）における赤十字活動費）	12,471,156
社業振興費（赤十字思想の普及啓発費、社資・義援金募集費、社員管理費）	24,631,105
積立金支出（災害発生に備えた積立金等）	22,642,986
総務管理費（支部の事業管理運営費）	23,707,099
資産取得及び資産管理費（施設管理費）	1,119,320
本社送納金支出（日本赤十字社本社への送納金）	18,963,922
予備費	—
支出合計	161,240,393
次期繰越金	8,629,159

平成28年度予算

収入の部	予算額(円)
社資収入	167,000,000
補助金及び交付金収入	—
繰入金収入	1,100,000
雑収入	5,200,000
前年度繰越金	4,700,000
収入合計	178,000,000

支出の部	予算額(円)
災害救護事業費	21,460,000
社会活動費	46,430,000
国際活動費	1,100,000
指定事業地方振興費	3,000,000
地区区分交付金支出	16,390,000
社業振興費	26,450,000
積立金支出	10,000,000
総務管理費	27,030,000
資産取得及び資産管理費	1,322,000
本社送納金支出	24,150,000
予備費	668,000
支出合計	178,000,000